

<input type="checkbox"/>	出張報告書	番号	DB18-083			
<input checked="" type="checkbox"/>	会議議事録	作成日	2018年11月20日			
件名	2018年11月度 研究部 部内会議 議事録		部課名	認可	審査	作成
			研究部	上森		藤田
日時	2018年11月7日(水)13:00～14:15		場所	熱交会議室		
出席者	白石常務 上森部長 内田技術主幹、今西G長、久野ラボ長、藤田（記）					
議題、議事の趣旨、結論（決定事項・要処置事項）等					担当、期限	
<p>1. 共通</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし <p>2. 研究開発状況 （※見出し番号は会議資料の番号）</p> <p>2.1 研究グループ</p> <p>(3) 集中研／高熱伝導材(AK7058)</p> <ul style="list-style-type: none"> 上期成果報告会での各種試算（性能、重量等）は板厚0.8mmだったのはずであるが今回報告は1mmとなっている。試算が変わるのか？ 厚さを確認する。 0.8mmのフィン製作に用途はあるのか？ 《⇒0.8mmで試験実施、1mmは誤記》 <p>(4) 集中研／金属積層(AK7059)</p> <ol style="list-style-type: none"> 熱交試作品の残留粉末は問題なくとれた。 Scalmalloyの溶接がうまくいけば、進展が大きいの。東洋アルミとの共同研究を加速のこと TRAFAM ②展示会サンプルは、ホンダの残材で対応予定 <p>(5) 集中研／トポロジー最適化(AK7065)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①300回の計算時間は？→確認する コンソーシアムは12月立ち上げ予定17社？ 大学側にとっては、都合がいいかもしれないが、企業側にとってはあまり好ましくないように思われる。それぞれの思惑が先行し、うまくまとまらない事も想定されるため、他のルート（他大学や研究機関あるいはソフトメーカー）との共同研究の可能性に関し、情報収集を検討すること。 <p>2.2 材料・プロセスリサーチラボ</p> <p>(2) 依頼調査業務</p> <ul style="list-style-type: none"> SPTとの契約書を締結。見積書、発注書、納品書等も対応の事。 <p>2.3 知財グループ</p> <p>(6) 連絡会議、講習会</p> <p>2) 知財講演会</p> <p>内容は去年より今年の方が高度であるが、評判はプレゼンの仕方が影響したのか去年の方がよかったという声をよく聞いた。自分たちにおいてもプレゼンのやり方の重要性を再認識方。</p> <p>2.4 拡散接合研究グループ</p> <p>(2) 円形チャンネルズレ・・・ズレ合わせには限界があると思われるので、ズレを含めて満足するようにすべきだと思う。（この追求は検証作業で、最終設計思想は、ズレ許容予定。）</p> <p>(3) 圧力変動に関しては、大きくなければ、航空機でも30%程度のズレは許容しており、小さい変動は問題ないとする。</p> <p>(4) ヘッダータンク等の溶接はロボット化も含めて、部門側とよく協議の事。 (プレート&フィン型に比べ、拡散接合品は端面の凸凹が少なく、ロボット化はより容易なはず)</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 先日実施された管理職アンケートに関して、意見交換した。 <p>※ 次回2018年12月度部内会議(12/11)の資料担当は内田技術主幹</p>					<p>今西 G 長</p> <p>今西 G 長</p> <p>今西 G 長</p> <p>久野ラボ 長</p> <p>全員</p> <p>藤田 G 長</p>	
					以上	
関連文書類 2018年11月度 研究部 部内会議資料						